

2023. 12. 19

(件名) コナクリ港で発生した爆発および火災について (第三報)

【本文】

●18日未明に発生した、カルム地区の石油貯蔵施設の爆発および火災を受けて、現在までにギニア首相府から発出されたコミュニケ（1番、2番及び3番）の要旨は以下のとおりです。

(1) 18日20時まで判明した被害状況

死者14名、負傷者190名、18ある石油貯蔵タンクのうち13が破壊。他方5つは影響を受けず。

(2) 「政府危機対策室 (Cellule de crise gouvernementale)」及び「災害評価委員会

(Commission d'évaluation du sinistre)」を設置するとともに、国家緊急人道災害管理庁が緊急電話及びメール通報を受付ける。

(3) 火災はようやく制御できた。他方、火災、爆風により周辺家屋等も破壊されたため住民を避難させるとともに支援を実施中。

(4) 石油燃料のストックが破壊されたので、今後停電が発生する可能性がある。

(5) 投機目的とした価格高騰を避けるため、全国にわたりガソリンスタンドを閉鎖する。首都コナクリから内陸に向けた燃料補給が途絶する可能性があるため、生存に不可欠な燃料需要の確認を行っていく。

(6) 既に発出した要請及び措置（自宅待機を推奨、学校の休校：クリスマス休暇開始の前倒し、ガソリンスタンドの救急サービス以外の閉鎖）を継続する。

●引き続きカルム地区への出入をはじめ、コナクリ市内各地で交通規制が敷かれています。また火災は制御されたとしながらも、いまだ災害現場から黒煙が上がっている様子が見られ二次災害の発生の可能性も否定できません。ギニアに滞在中の方は、引き続き慎重な行動を心がけるとともに、安全確保に努めてください。

邦人が何らかの被害に巻き込まれたとの情報に接した場合には、大使館にご一報をお願いいたします。